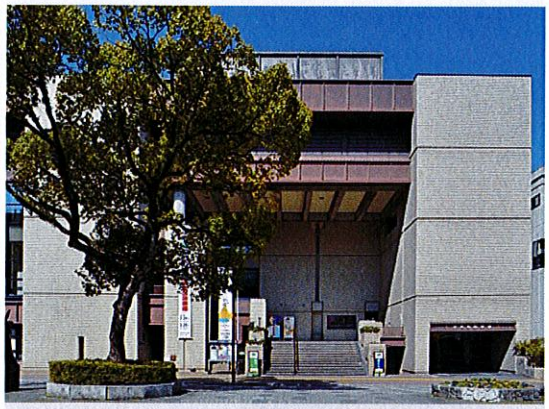
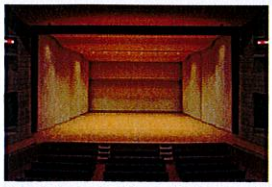
宇和島市立南予文化会館 改修工事



施工：東芝エルティーエンジニアリング(株)
中国営業所・浜屋博志
開発営業担当・奥村浩平
設計担当・小川知巳
施工担当・西森公一
工事期間：2011年6月～2012年3月
回路スペック：300kVA／260回路
客席数：1,234席(1階 686席/2,3階548席)
舞台：間口 17m／プロセニアム高さ 8m／奥行 14m／すのこ高さ 18m



■LEDシアター用ダウンライト6000シリーズ

■LEDボーダーライト2000シリーズ

宇和島市立南予文化会館の改修工事が竣工しました。調光設備、負荷設備、器具設備、誘導灯設備と全ての舞台照明設備を改修いたしました。調光操作卓とプラグイン調光器の導入により多彩で安定した演出を実現しています。負荷設備と低騒音器具への交換を主体とし、更には、安全性と演出環境の向上を主眼とした省エネ製品でもある、LEDボーダーライトとLED音響反射板ライト（LEDシアター用ダウンライト6000シリーズ）を導入いたしました。

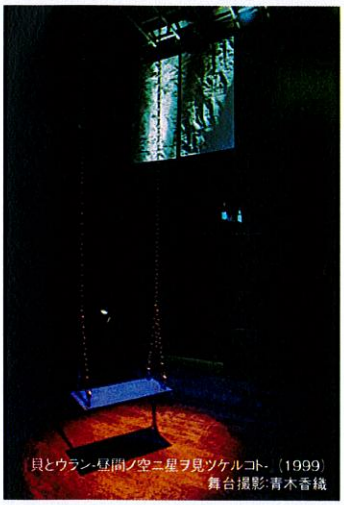
この規模の文化会館での舞台照明設備のLED化は、弊社としても初めての経験でしたので、入念なシミュレーションの上、納品を行いました。

完成した舞台を見た時に、舞台上のきれいなあかりが目に入ったことと、会館の方の喜んだ表情がとても印象に残っています。宇和島市が踏み出した舞台照明設備の新たな一歩に、弊社が協力出来たことを嬉しく思います。

最後に、この改修にあたり多大な御尽力を頂いた宇和島市御担当者、南予文化会館館長はじめ御関係者の方々に心から感謝いたします。

空の観測法
第四回「葛藤」

連載コラム ／ 幸 和紀



貝とウラン-昼間ノ空ニ星ヲ見ツケルコト-（1999）
舞台撮影:青木香織

初めて任された美術は、和栗さんからの「マーク・ロスコの絵を三枚、模写しろ」だった。但し、寸法は全てサブロク。抽象画を三枚、変形させつつ模写。難儀な話である。しかし当初、三枚の絵を舞台でどのように使うかは未定だった。「持って踊る」とか、曖昧な話だけを聞き、ロスコの画集を借りて、サブロクの寸法でキャンバスを三枚作り、模写を始めた。

ロスコの絵が夢にまで現れて一ヶ月過ぎた本番数日前、三枚の絵のうち二枚を舞台上に吊る話が決まった。一枚は絵を垂直に、もう一枚は斜めに吊ると云う。模写に苦悩していたとき、それらを舞台上に吊るとは思いもせず、そんな配慮に全く欠けたシロモノだったが、どうにか吊らねばならない。しかも、それは私にとって初めての「吊物」で、途方に暮れる気分に陥りつつ、「駆け出し者」なりに思い付く方法で初日の前夜に吊り終えた。

初日が無事終演し、客出しが済んだのと殆ど同時に、一枚の絵が舞台上に落ちた。背筋が凍り、総毛立った。初めて手掛けた美術が、吊物落下事故の初体験にもなってしまい、これが原因で何年もの間、吊物は私のトラウマになった。

吊物に関わる度に強い葛藤を抱く自分の治療を考え、あるとき、私が首謀者の舞台でブランコを吊った。「役者が立ち漕ぎできるブランコを吊る」と云い放ち、役者に体重を尋ね、「それ以上は太らないこと」と厳命し、構造計算らしき検討を行い、吊込みの際は保安ワイヤを二重に掛けた。万が一、ブランコの鎖が破断しても、鎖の輪の二つ分ほど座面が低くなるだけで落下には至らない仕掛けだ。その説明を、自分に云い聴かせる心境で役者に語った。役者が呟いた。

「ブランコは落ちなくても、その瞬間に台詞が落ちます」

台詞の落ちる方がマシである。無事故で終演したものの、吊物恐怖症は現在も完治せず、そのくせ高いタッパに吊物を好む自分が厄介だ。

幸和紀（ゆき・かずのり）
株式会社テトラロジックスタジオ代表

『A4 NEO』

「Season 2 #001」

舞台は危ない場所です。初めて舞台裏見学に参加する人には、口うるさいほど繰り返します。「アブナイヨ」しかし、思い返してみれば、その言葉を書いたことはあまり無いかも知れません。ましてや、舞台の床に書いたことは、一度も無いです。

この大胆な「アブナイヨ」の「ヨ」も気になりますが、その文字たちに「照明」が踏まれているのはどうしたことでしょうか？　照明班に対しての「アブナイヨ」だとすれば、たちまちドラマが始まります。

照明班が床のケーブルを養生しました。彼らが休憩に出たあと、照明の師匠が現れたのです。「甘い養生だ」　テープで無言のダメ出し。厳しい中に「ヨ」は愛情でしょう。照明家の成長ドラマです。主人公がピアノ科の女学生でなくても第3シーズンまで目が離せません。コラボ商品展開も気になるところです。

あ、今回からこのコラムが「Season 2」に突入です。深い意味は無く、やってみたかったのですヨ。

（エキストラMC）

のしあた～ Going

「客席」

世田谷の劇場にて観劇。平日昼間だが、客席最後部のスタンディングエリアまで満席。

第一幕は三階席から。舞台装置のシャンデリアを上から見下ろす位置。舞台全体を見渡す感じではあるが、役者との距離感はそれほど無い。

第二幕からは、同行者と席を交換して一階席へ。三島由紀夫戯曲の膨大な台詞を間近に立つ六名の女優たちが、自分に向かって話しかけてくる。同じ空間に居ても観る場所が違うと印象が全く違う。

3時間を超える上演時間を全く感じさせない、舞台と客席が一体となった幸せな時間を過ごす。

大阪のツアー公演は観に行くことはできなかったが、違う器で観る同じ作品。どのように変化するのか観たかった。

（桟敷のY）

「劇場の視覚特性に関する研究」（浦部智義）より

舞台照明はゲームの木
横原由祐 氏（その3）
照明家インタビュー

横原由祐（よこはら・ゆう）
舞台照明家。日本大学芸術学部演劇学科照明コース卒業。（株）シアタークリエイションに9年間所属、舞台照明家　齋藤茂男に師事。チーフオペレーターとして数々の舞台創作に参加。第30回平成22年度日本照明家協会賞 新人賞を「7ストーリーズ」で受賞。2012年に独立。

鵠座フリンジ企画　CLEANSED project 03　「洗い清められ」
2012年5月 @space EDGE　作:サラ・ケイン／構成・演出:川口智子
URL:http://kamomeza-fringe.net/pg49.html

編：「どうしたら照明家になれますか？」と尋ねられたら？

横原：「照明家」って名乗った時点でプロ。お金を貰った時点で、もうプロ。「お金を貰ってないならアマチュアだよ」って（笑）。プロの照明家としてどうやっていくかは自分でやっていくしかない（笑）。手っ取り早いのは会社に入ること。つまり師匠を見付けること。そこで稽古を観ながら、「こういうことなんだ」と学んでいく。どれがカッコ好くてカッコ悪いかが解ってくる。で、「自分で照明をやりたいな」と思ったら、そこでのネットワークを使って独立したり、かな。会社に入ることが大事なわけではないですけど、そこで勉強していくって意味ではいいのかなと。自分のセンスに自信が無いと「いい道は何ですか？」ってなりやすいから、照明会社に入ってみるのがいいと思います。それから、何人の舞台照明家の名前を知っているかも大事かもしれません。この作品の照明家は誰なのかとか、美術家は誰なのかに興味を持つことが大事かな。学生だと、演出家の名前は知ってたりするんですけど（笑）。「あの作品。照明家は誰さんだね」って話にはならないですからね。

編：照明を学ぶための教材みたいなものってありますか？

横原：僕は幸せなことに大学が劇場を持っていて、機材には触れる機会があったし、学生演劇で先輩や仲間の手伝いをしたりで、だから僕はノンストレスだったんだけど…。シミュレーションソフトはあるけど、あれは準備段階作業の道具だから、実際とは全然違うんですよね。実際の空間で「この影、いいよね」って気付けること、劇場で発見するものがいい照明になるわけです。テクニカルに関しては機材を触るのが一番いいし、芝居をたくさん観るのは当然大事なんですけど。重要なのは想像力と経験値ですね。大学には、石像に照明を当てた写真とか教材はあったけど、やっぱり実際に空間で光を出してみないと学べないです。大学のときに、北寄崎先生から遊眠社の舞台のビデオを観させてもらったり、実際の仕込み図を渡されて、その通りに仕込んで、それで何か照明プランを発表しろとか、そういう授業は面白かったですね。いろいろチャレンジしてみて、「これ失敗したな」とか、「でも吊っちゃったしな」とか（笑）。それでも「これが正解なんですよ」って言い張るテクニックとか（笑）。照明だけで舞台は成立しないですから。いい美術に出遭うと燃えます。照明家だけの想像力だと限界はあるわけで、演出家や美術家、音響家とのコラボレーションです。だから照明のテクニックを教えることはできるけど、感性については、教えることは難しくて。感性をどう養っていくかなんです。自分の目にした風景の蓄積とか。僕は写真を見るのが好きで、美術展の絵とかも照明のヒントになりますが、基本的には、師匠の光が元には有りますね。

（続く）

［発行］東芝エルティーエンジニアリング株式会社　アートライティング事業部　アートライティング営業部　開発営業担当
〒140-0004 東京都品川区南品川 2-2-13（南品川 JN ビル）TEL:（03）5479-2277
〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋 4-3-7（北ビル 6F）TEL:（06）6208-6111
http://www.lte.co.jp/
［発行日］2012 年4月15日
［編集］株式会社テトラロジックスタジオ［デザイン］小澤学

※本誌記事・写真の無断転載を禁じます。